

「市政を思い発言する会」という会から配布されている文章について

本来であれば、せっかく発行している県政報告において、このようなことにスペースを取りたくないのですが、第3者にご迷惑がかかる可能性がある中で、**政治に携わる人間として説明責任を果たしたいと思い、以下に事実を記させていただきます。**

1 12月19日に密談したとの記載について

12月19日石坂市長、県議宅にて後援会会計 責任者久保田市議等数人の会合に中村市議が呼ばれて密談して中村市議の出馬を決めた

12月19日は私の後援会が中心になって主催をした「第2回まさるコンペ」の開催日であり、早朝よりゴルフ場にて設営をして、午前中は県議会の常任委員会に出席し、午後にゴルフ場に戻り、夜も参加頂いた方や、設営に協力頂いた方々の慰労会に参加していたため、物理的に自宅で密談を開くことができる日程ではありません。

2 特定の企業との関係性について

特定の企業名を挙げて、政治献金と公共事業の関連性について、記載がされていますが、公共事業に関連があるなしに関わらず、また市内外に関わらず多くの皆様から私の政治活動にご理解を賜り、政治献金にご協力頂き、事務所の運営や政治活動に活用させて頂いております。その中で、**特定の事業者**に仕事を斡旋するようなこともありませんし、**見返りを求められたこともございません**。あまりにも時代錯誤な感覚だと思います。

そもそも、**政治資金規正法に基づき、適正に処理をして、政治資金収支報告書に記載をして、毎年適正に公表をしているもの**であります。私自身後ろめたさや、やましさはまったくございませんし、公表し



▲ 2023年分



▲ 2022年分



▲ 2021年分

ている内容については、右上のQRコードから閲覧頂けますので、是非ご覧ください。

尚、企業・団体献金の是非については、現在国で議論が進んでおりますので。何かしらの方向性が決まれば、それに従い対応していきます。

これまでも、多くの皆様から物心両面に渡ってご協力を頂いておりますことは、本当に感謝しかありませんし、今後も期待に応えられるように頑張りたいと思いますが、その中で、もしも市民の皆様の期待を裏切るようなことがあるのであれば、**いつでも職を辞す覚悟を持って政治活動をしておりますし、何よりも私自身は、そのような小さな志で政治に向き合っているつもりは毛頭ございません**ので、市民の皆様にはご信頼と、ご理解を頂ければと思います。

また、それぞれの企業が様々な努力をして経営しているにも関わらず、**さも献金をして仕事を受注しているような誤解を招く記載をすることは、それぞれの企業活動に対する冒涇だ**と思いますし、大きな雇用を生んで、真岡市の活性化に貢献を頂いている各企業や、真面目に働いている社員の皆様に対して大変失礼な記載だと思います。

私自身、真岡市の未来を常に純粋に考えているつもりですし、真岡市を更に良くしていくための選択をこれからもしっかりとしていきたいと思っておりますので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

尚、上記の件につきまして、詳しくお聞きになりたい方は、どうぞ私の携帯に直接ご連絡ください。いつでも率直にお答えさせていただきます。

石坂まさる携帯番号 090-2409-3642



ごあいさつ

拝啓 皆様におかれましては益々ご清祥のことと存じ上げます。

さて、2000年代に入り、早いもので今年で四半世紀が経過いたします。

私自身2000年に20歳を迎えましたので、月日の流れの早さを感慨深く感じた年始でありました。

この四半世紀を振り返りますと、スマートフォン等によって人と人の関わり方が大きく変化し、ハラスメントの種類が年々増え、働き方改革の名の下で働く時間が規制されるなど、いい変化、悪い変化、両面の評価はあるとは思いますが、本当に大きな変化があった四半世紀であったように感じます。更には少子高齢化への対応といった課題や、それに伴う人手不足、学校や公共施設の統廃合など、今後早急に対応しなくてはならない様々な課題が山積しています。

このような課題を次世代に先送りせずに解決に向けて進めていくには、耳障りの良いことばかりを伝える政治ではなく、私達自身がこのような課題を真っ向から受け止め、皆様に語っていくことが必要だと思います。その上で目指していく未来やビジョンをしっかりと描き、皆様と共有し、少しでも良い状態で次世代に紡いでいくことが必要です。

成人になり、四半世紀を迎えた中で、改めて様々な責任を自覚しながら、しっかりと襟を正し、引き続き政治に向き合って参りますので、引き続きの御指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



令和7年度栃木県予算が成立しました

2月18日に開会された2月通常会議において上程された令和7年度の予算が、3月24日に賛成多数で可決されました。

予算総額は9,242億円となり、知事が掲げる「未来への投資」を踏まえ、様々な分野の未来を描いた予算編成となっています。

特に令和7(2025)年度政策経営基本方針に基づく重点事項の積極的な展開として、

①少子化対策と人づくり・女性活躍の推進によるとちぎの未来創生

②地域経済の好循環創出

③DXによる安全・安心で暮らしやすいとちぎづくり

の3つの大きな柱が掲げられ、併せて最終年度を迎える、「とちぎ未来創造プラン」及び「とちぎ創生15戦略(第2期)」の総仕上げに向けた予算編成となっています。

予算の概要については下記のQRよりご覧ください

栃木県の予算 ▶



予算編成に向けた自民党政務調査会の活動

とちぎ自民党政務調査会において、年間を通した調査研究においての出された様々な意見を会派としての要望を取りまとめ、福田知事に要望書を提出しました。

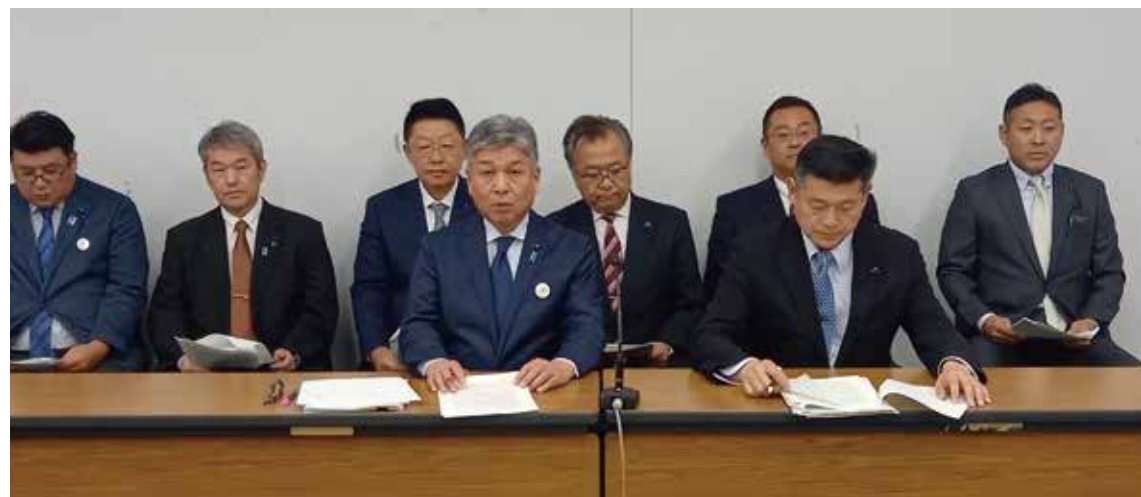
その結果、私達の会派からの要望に対して、満額回答をいただきました。

今後も県民の声を反映できるよう、精一杯頑張っています。

とちぎ自民党が要望し上乗せされた予算(抜粋)

- 交通安全施設整備費(信号機の更新、消えかけた横断歩道やダイヤモンド等道路標示の修繕)
- 県立学校長寿命化計画の前倒し(真岡女子高、小山西高)や洗浄便座化
- 有害鳥獣捕獲事業費の強化(イノシシ等の捕獲費)
- 緊急防災・減災対策事業費(川底の掘削や河川整備) 等々

詳細はQRからご覧ください(県連ニュース一番上)



とちぎ自民党青年局長に就任

この度の役員改選において、とちぎ自民等青年局長に就任いたしました。

自民党青年局のキャッチフレーズは「ファーストペンギン」

「ファーストペンギン」とは、集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海へ、魚を求めて最初に飛びこむ1羽のペンギンのことを指します。

私達の世代がリスクを恐れずに行動し、今の自民党のみならず、政治を立て直す原動力になるべく、精一杯頑張っています。



生活保健福祉委員会委員長として

令和6年度は生活保健福祉委員長を務めさせて頂きました。

喫緊の課題である医療提供体制の充実に向けた議論や、ケアラー対策等の医療・福祉分野に対する取組、「栃木県少子化対策緊急プロジェクト」にもとづく結婚支援や、子育て対策に向けた取組、また、スポーツの振興や、身近な防犯への取組強化など、大変多岐に渡る分野を所管させて頂きました。

また、先進地視察として、大分県立美術館(複合的な施設整備の効果について)、社会福祉法人別府光の園(複合的な子育て支援施設の運営について)、福岡県済生会病院(救急医療提供体制の在り方について)を視察し、本県においても今後大変参考になる取組であり、大変充実した1年間となりました。

本年度の経験が無駄にすることなく、今後の活動に生かして参ります。



第78回国民スポーツ大会「SAGA2024」(旧国民体育大会(国体))



佐賀県で開催された国民スポーツ大会にスポーツ振興を所管する委員長として参加させて頂き、議會を代表して選手団に向けて激励をさせて頂きました。

今後もスポーツを通じた本県の更なる活性化や、スポーツを通じた様々な施策が進められるよう取組んで参ります。